長い間、応援してくださいましてありがとうございました。
これからは、ひとりひとり、新しい活動に頑張っていきます。
また、いつか、どこかでお会いできることを願いながら・・・・
皆様のご健康、ご多幸を心よりお祈りいたします。

―― 予 告 ――

奈良・学園前楽しい朗読教室
第５回発表会

■2017年11月19日（日）14時～
上演時間は、1時間45分位を予定しています
（途中休憩15分を含む）

■ 於 ：ギャラリーGM-1（入場無料）
（近鉄学園前南口より徒歩5分）

■演目：「花はどこへいった」
今江祥智（1932生、童話作家）
ウミチドリという花が小さな村をうめつくすほど咲いていたのですが・・・・

「おぼろ月夜」
山崎陽子（童話作家、ミュージカル脚本家）
エレベーターガールの牧子は、日に何度も乗り降りする老夫婦に気づきます。ある日、老夫人の頼み事を聞いて・・・・

「ちっちゃなかみさん」
平岩弓枝（1932生、時代小説、芝居の脚本家）
向島の料理屋の一人娘が恋した相手はかつぎ豆腐売り・・・・ 両親は慌てふためくが・・・・

＊小さなギャラリーですので、事前にご予約下さいますようお願い致します
お問い合わせ、ご予約は下記 秋山まで

朗読教室ご案内 ～奈良学園前・楽しい朗読教室～

初心者から経験者まで学んでいただけます。その方に応じて楽しくレッスンをしています。
第2、4（火）10時～・11時半～。無料体験、無料見学あり。まずはお問い合わせください。
（【サンライト文化教室】で検索可）

■ お問い合わせは：TEL&FAX／0742-48-8688（秋山）
メール／akikan@m4.kcn.ne.jp　またはホームページ／http://r-gen.jimdo.com
（朗読ＧＥＮの活動についてはホームページでご覧ください。朗読ＧＥＮで検索できます）

朗読劇団
朗読 GEN 第15回定期公演

2017年
8月26日(土) 16:00開演（開場は15:30）
8月27日(日) 14:00開演（開場は13:30）

会場／
近鉄アート館
あべのハルカス
近鉄本店ウイング館８階

芥川龍之介 地獄変
筒井康隆 関節話法

第十五回公演 ごあいさつ

本日はご来場くださいまして、まことにありがとうございます。

長い間、続けてきました活動を今年で一区切りすることにいたしました。

GEN発足のいきさつは、「歩み」のところで述べますが、暗中模索の中、何とか終えた第一回公演の後、これからも活動を続けるには演出や演技を学ばねばと、演出者協会主催の各地の演劇講座に行くようになりました。高校生とも一緒に、恥ずかしさを吹っ切って3日間で創る短い芝居に参加したことや、どうしても聞きたい演出講座に出席するため、奈良から鳥取まで行き、日帰りをしたこともありました。

今となっては、たくさんの方に出会えた楽しさだけを思い出します。本の世界が舞台上に立ちあがったら面白いだろうなという単純な動機で朗読劇を創ってきましたが、劇団員の頑張りに支えられ、またスタッフの温かな協力に助けられ、ハラハラドキドキ見守りながらも、次回を期待してくださったお客様の励ましのお蔭で、十五回まで歩み続けてこられたことを、心より感謝申し上げます。

GENを育ててくださった皆様への心からの感謝を胸に本日の舞台をつとめます。

どうか最後までご覧くださいますよう、よろしくお願いいたします。

演出　秋山 太加

原作／芥川 龍之介

上演台本
演　出　秋山 太加

「地獄変」

■キャスト

良 秀……田中章恵
女 房……太田淑子
　　秋山太加
　　下村淑子
良秀の娘
仕 丁……村井友美
若 殿
仕 丁
弟 子……坂田昌子
大 殿……福嶋左知子

原作／筒井 康隆

上演台本
演　出　秋山 太加

「関節話法」

■キャスト

おれ……福嶋左知子
星務省情報局長　下村淑子
通 訳……坂田昌子
　　秋山太加
マザング星人
総理大臣……田中章恵
情報大臣……太田淑子
外務大臣……村井友美

■特別出演

能管演奏……野中久美子

■スタッフ

音　響……西角秀紀
　　(有)ムーブファクトリー
照　明……牟田耕一郎
　　(劇団ママコア)
舞台監督……hige(BS-II)
美　術……佐野泰宏
ヘア・メイク……五十嵐公子
　　(日本メークアップアーチスト学院)
着付け……奥山みどり
衣装制作……青柳秀子
「関節話法」
マザング星人衣装製作　枝松千尋
ヘア・メイク……井上三友紀
　　藤原美弥
　　西口礼香
宣伝デザイン……桂　瑞子
写真撮影……N O G
記　録……坂田憲司
制　作……丹原祐子
　　(Office P・T企画)
プロンプター……宮路一枝
音楽選曲……秋山太加
協　力……あまのあきこ
　　安藤きく　高口祐子
　　つじたゆみ　桝田聖美
　　百合崎ほたる　亀井敬子
　　田中仁美　田中湧也
稽古場協力　(有)ムーブファクトリー
パンフレット
デザイン……桂　瑞子
編集・文……秋山太加
印　刷……宣光社
企画・製作　朗読劇団・朗読GEN

■客演プロフィール

坂田 昌子

おしゃべり集団「チームソラミミ」のメンバー。インターネットでの朗読を中心に朗読ライブやラジオ出演、ボイスドラマなど、活動の幅を拡大中。現在FMたんご「ワンテーマミュージック」(毎週水曜日14時～)にてナレーションを担当している。朗読GENへの登場は第10回「四捨五入殺人事件」からで、第13回「舌切雀」「五郎八航空」、第14回「夜鷹蕎麦十六文」「思案橋の二人」に出演し、時代劇から現代劇まで多彩な役柄に挑戦している。

村井 友美

演じることによって人の心に残る存在になりたいと芝居を始める。約10年間劇団に所属の後、現在フリーで活動中。朗読ＧＥＮに登場したのは第11回「冬の星座」からで、第12回「猩々乱」「落葉なしの椎」、第14回「夜鷹蕎麦十六文」「思案橋の二人」に出演し、可憐な娘役から芸者まで様々な女性を演じている。

■プロフィール

能管奏者
野中久美子(のなか くみこ)

京都市生まれ。1986年、国際基督教大学(ICU)教養学部卒業。能管を松田弘之(能楽笛方森田流)に師事。独奏のほか、世界の様々な楽器や舞、朗読との共演も行う。富士山五合目 小富士、屋久島縄文杉、下鴨神社糺の森などの野外での演奏や神社寺院での奉納演奏も数多い。アジア・ヨーロッパ諸国へも度々演奏に訪れる。近年は、能管のもつ身体性や情動性、力感などの楽器の特性を生かした新しい作品を創作している。
『風迢舎』主宰。
1998年から毎年、京都市の大徳寺大慈院で様々なジャンルの表現者をゲストに迎えたコンサート「風響の会」を主催。
2005年からは能管が生まれた室町時代に建てられた今西家書院(重要文化財)でも企画公演を続けている。2015年のミラノ万博では日本館で行った風迢舎ライブが好評を博した。

公式サイト
http://fuu-chou-sha.jp
公式Facebook
「野中久美子 風迢舎」

芥川龍之介
地獄変

集英社文庫「地獄変」所収

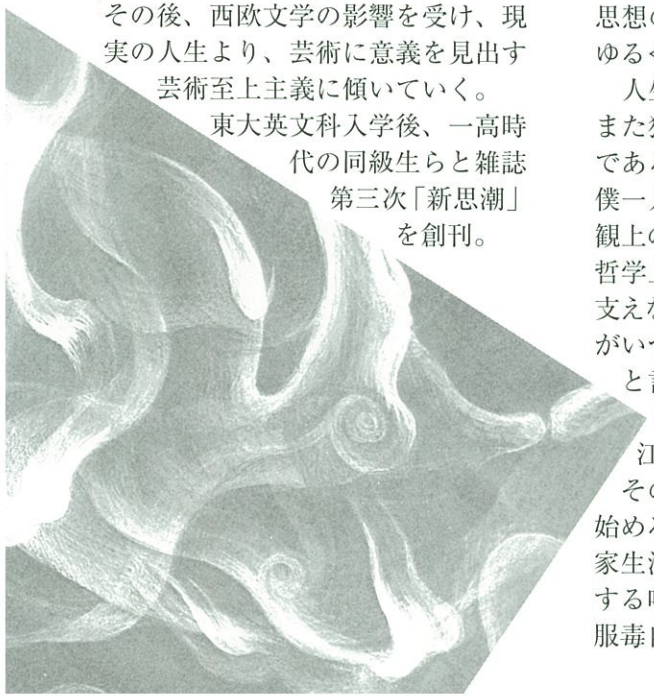
人の欲望の果てなきを華麗な文体で
描ききった芥川龍之介の代表作。

芥川の文学

東京都京橋生まれ。誕生が辰年辰月辰日、辰の刻だったので、龍之介と命名された。生後７か月で母が精神を病んだため、母の実家、芥川家で育てられた。この体験は彼の心に後年まで暗い影を落としたが、反面、江戸下町の旧家の文人的、通人的家風の中で芥川の感性や感覚の細やかさは形成された。

その後、西欧文学の影響を受け、現実の人生より、芸術に意義を見出す芸術至上主義に傾いていく。

東大英文科入学後、一高時代の同級生らと雑誌第三次「新思潮」を創刊。



翌年に夏目漱石の門下に入り、「鼻」が漱石に激賞される。詩人、萩原朔太郎が「鋭い頭脳とやわらかい心臓を持った最速度の神経的闘争者。少年の頃、ひたすら文学の世界での変身を夢見た男はやがて、ある時は雨に降りこめられた下人となり、ある時は創作の三昧境に遊ぶ戯作者となる。・・・彼の文学と思想の内には日本的近代のありとあらゆる<問題>が含まれている」と書く。

人生の醜さ、人間の我執を鋭く描き、また独自の芸術至上主義を貫いた作家であるが、自身のことを「僕はいつも僕一人ではない。息子、亭主、牡、人生観上の現実主義、気質上のロマン主義、哲学上の懐疑主義など、それは格別差支えない。しかし、その何人かの僕自身がいつも喧嘩するのに苦しんでいる」と言っている。彼の文学は「型」の中に表現され、王朝物、切支丹物、江戸物、開花物などに分類される。

その後、現代を描く小説へと移行し始めるが、心身の不調がひどくなり、作家生活わずか10年にして、「将来に対する唯ぼんやりとした不安」を理由に服毒自殺した。

歴史小説には「羅生門」「芋粥」など、また、三島由紀夫が芥川の代表作とする「舞踏会」など珠玉の短編が数多くある。

地獄変解説

この作品は「王朝物」といわれる平安時代に材料を得た歴史小説である。

『宇治拾遺物語』巻三の絵師良秀の話と『古今著聞集』の巻十一の絵師弘高の話を一つにまとめた作品である。

素材は古典からとっているが、主題や構想は芥川の独創で、芸術と道徳の相克と矛盾という彼にとって最も痛切な問題を描いている。絵師、良秀は彼の望んだ通りの屏風絵を描きあげたが、そのために愛する娘の命を犠牲にした。

敢えて自分が望んだことであったが、その残酷さに結局は耐えられなかったというところに、芥川の芸術家として、人間としての葛藤の到達点を感じることもできる。

あらすじ

ある夜の事、かつて仕えていた堀川の大殿の屋敷に、三人の女房たちがあの世から舞い戻ってきた。

懐かしい出来事を思い出し、話し始める女房達の心に浮かぶのは、やはり本朝第一の絵師、良秀のこと。当時、絶大な権力をふるった大殿から地獄変の屏風を描くようにと命じられた良秀は、ある望みを大殿に申し出る・・・

【参考図書】　「地獄変・偸盗」新潮文庫
「地獄変」集英社文庫
芥川龍之介年表・作家読本　河出書房

芥川龍之介・年表

年号	西暦	年齢	事項
明治25	1892	0	東京市京橋区(現中央区)に生まれる。辰年辰月辰日の出生で、龍之介と命名。実母新原ふくが精神障害、母の実家芥川家で育てられる。芥川家は、代々江戸城のお数寄屋坊主をつとめた家柄である。家庭生活には江戸の文人的、通人的趣きが強かった。
35	1902	10	四月、同級生たちと回覧雑誌「日の出界」を発行。11月28日実母ふく病死。
38	1905	13	東京府立第三中学校に入学。内外の文芸書・歴史書を濫読。
43	1910	18	第一高等学校に入学。
大正2	1913	21	東京帝国大学英文科に入学。
3	1914	22	処女小説『老年』
4	1915	23	『ひょっとこ』『羅生門』漱石門下の「木曜会」に出席。
5	1916	24	第四次「新思潮」創刊号に、『鼻』を発表。漱石が激賞する。『孤独地獄』『酒虫』『芋粥』『手巾』『煙草と悪魔』海軍機関学校の嘱託教官となる。師、漱石没。
6	1917	25	『偸盗』『或る日の大石内蔵助』『戯作三昧』
7	1918	26	塚本文子と結婚。『**地獄変**』『蜘蛛の糸』『開化の殺人』『奉教人の死』『枯野抄』
8	1919	27	大阪毎日新聞社嘱託社員となる。出勤はせず、毎日新聞のみに年何回か小説を書くという条件。
9	1920	28	『舞踏会』『秋』『南京の基督』『杜子春』
10	1921	29	『山鴨』『秋山図』大阪毎日新聞の海外視察員として中国に赴く。帰国後『上海游記』
11	1922	30	『藪の中』『将軍』『トロッコ』神経衰弱、腸カタル、ピリン疹などに悩まされる。
12	1923	31	春、湯河原で静養。『保吉の手帳から』『あばばばば』
13	1924	32	『一塊の土』『糸女覚え書』
14	1925	33	『大導寺信輔の半生』
15	1926	34	神経衰弱が昂じて不眠症になり、一月湯河原で静養。『点鬼簿』『鵠沼雑記』
昭和2	1927	35	『玄鶴山房』『河童』東京田端の自宅で自殺。遺稿として『歯車』『或阿呆の一生』『西方の人』『続西方の人』などある。

筒井康隆と「関節話法」

新潮文庫「傾いた世界」自選ドタバタ傑作集2所収

1934年生まれの筒井康隆の感性、感覚が生み出す作品が、現在の我々にとってこんなに面白いことに驚かされる。私たちはいずれ地球上の資源を食い潰し、この小説のように別の星に行ってぶんどってくるか、いや平和的交渉によって頂いてくるようになるのだろうか？ さて昨今は、口から音を出す言葉より、ラインやメールなど画面上で会話をすることが多くなっているが、主人公のおれが大使として赴くマザング星では関節話法を用いて会話をする。この話法では「口での会話なら当然そうするようなごまかしだの、いい直しだのが全くきかない」のである。

また、マザング星人には「周囲の人間を自分に注目させようとして大声を上げる無遠慮な人間」もいない。「喋っている人間に対してその場にいる全員が注目しなければならないので、横から割り込む無作法者」もいないのだ。なんだか今の政治家（だけではないが）を思い出してしまう。

筒井康隆は、好きと嫌いがはっきり分かれる作家かもしれないが、こんな作品を書ける作家はいないのだからやはり天才なのでは・・・ 人間がもつ差別性をブラックユーモアの伝統を守り、描き続けている彼が断筆した経緯は、また何かでぜひ読んでいただければ、 気骨と誠実の筒井康隆も見えてくるかも・・・

本日はドタバタ喜劇、さすがの筒井ワールドをお楽しみください。

■あらすじ

地球の星務省に勤める“おれ”はある時、情報局長にマザング駐在大使を命じられる。マザングでは関節話法で会話をするというのだが・・・

筒井康隆

1934年、大阪生まれ。同志社大学卒。
1981年『虚人たち』で泉鏡花文学賞。
87年『夢の木坂分岐点』で谷崎潤一郎賞。
89年『ヨッパ谷への降下』で川端康成文学賞。
92年『朝のガスパール』で日本SF大賞。
96年12月3年3ヶ月に及んだ断筆を解除。
2000年『わたしのグランパ』読売文学賞を受賞。

朗読劇団 朗読GEN 14年の歩み

2002年末、創設メンバーが所属していた、あめんぼ座研究生の教室で講師をつとめておられた姉川明子先生が、講師を辞めるとの突然の話に驚きました。「自分たちでグループを作れば教えに行くから」と言われ、慌てて2003年に有志5名で朗読GENを結成しました。第1回公演の稽古の矢先、先生は入院、しかし、先輩に励まされ、何とか第1回公演を終えましたが、その年の10月に恩師が無念にも逝ってしまわれました。ここで辞めては、恩師に申し訳ないと思い、何とか面白い朗読劇が創れたらと、一生懸命やっているうちに14年が経ち、第15回定期公演を迎えることになりました。

2003年 6月22日	シアトリカル應典院：第１回旗揚げ公演／新美南吉の世界「ごんぎつね」・「百姓の足、坊さんの足」
6月27日	梅花高校：高校１年ＨＲ「外郎売り」「ごんぎつね」
12月28日	神戸、宝地院：村上春樹「もしょもしょ」「フリオイグレシアス」
2004年 3月13日	城北生涯学習センター：城北春まつり／斉藤隆介「死神どんぶら」
3月28日	大阪市立青少年センター：アーツコンペ／村上春樹「もしょもしょ」「フリオイグレシアス」
7月11日	シアトリカル應典院：第２回定期公演／藤田宜永「水に流して」
11月11日	梅花高校：３年ＨＲ／「外郎売り」「もしょもしょ」「フリオイグレシアス」
11月26日	梅花高校：１年ＨＲ／「外郎売り」「もしょもしょ」「フリオイグレシアス」
12月28日	神戸、宝地院：中江俊夫「あと２時間だ」 江國香織「桃子」
2005年 7月16日 17日	シアトリカル應典院：第3回定期公演 語り継いでゆきたい、あの日のこと。栗原貞子「生ましめんかな」山川方夫「夏の葬列」 妹尾河童「少年Ｈ」
12月18日	相愛大学・視聴覚室 関西短期大学図書館協議会研修会：山尾三省「火を焚きなさい」 山頭火「行乞記」
12月18日	中央公会堂展示室：クリスマス発表会のゲスト出演／江國香織「桃子」
2006年 3月25日	シアトリカル應典院：姉川明子追悼公演／平岩弓枝「鬼盗夜ばなし」（他の出演者は声の宅配便・オーヘンリー「最後のひと葉」）全員で谷川俊太郎「生きる」を朗読
7月15日 16日	シアトリカル應典院：第４回定期公演／不思議・ふしぎ・フシギの世界
	中島敦「山月記」 泉鏡花「外科室」 筒井康隆「五郎八航空」
10月22日	大阪市立関目市民学習センター：城北秋まつり／村上春樹「もしょもしょ」「フリオイグレシアス」
11月28日	梅花高校：２年ＨＲ／「外郎売り」 志賀直哉「転生」 村上春樹「フリオイグレシアス」
12月23日	枚方市百済神社：中宮サロン第1回例会／金子みすず 詩5編、志賀直哉「転生」村上春樹「フリオイグレシアス」
2007年 7月14日	シアトリカル應典院：第５回定期公演／近松門左衛門「曽根崎心中」 田辺聖子「薄荷草の恋」
12月８日	枚方サン・プラザ生涯学習センター視聴覚室：中宮サロン第13回例会 金子みすず 詩３編、藤沢周平「驟(はし)り雨」 村上春樹「もしょもしょ」「フリオイグレシアス」「トランプ」
2008年 7月12日 13日	一心寺シアター倶楽：第6回定期公演／芥川龍之介「地獄変」 今江祥智「ばるちざん」
10月13日	シアトリカル應典院：平岩弓枝「鬼盗夜ばなし」 筒井康隆「関節話法」
12月13日	枚方サン・プラザ生涯学習センター視聴覚室：小泉八雲「耳なし芳一」 浅田次郎「佳人」
2009年 7月25日 26日	一心寺シアター倶楽：第7回定期公演／武者小路実篤「久米仙人」 小川未明「赤いろうそくと人魚」 泉 鏡花「夜叉ヶ池」
12月12日	枚方サン・プラザ生涯学習センター視／聴覚室：岡本綺堂「経帷子の秘密」 遠藤周作「女の決闘」
2010年 2月14日	大阪市立青少年センター：法円阪フェステイバル／遠藤周作「女の決闘」
2月25日	関西外国語大学中宮学舎、多目的室 図書館協会阪神地区協議会2009年度第2回例会／金子みすず 詩４編、遠藤周作「女の決闘」
7月10日 11日	一心寺シアター倶楽：第８回定期公演／太宰 治 新釈諸国噺「赤い太鼓」・「走れメロス」
12月12日	枚方サン・プラザ生涯学習センター視聴覚室：宮部みゆき「片葉の芦」
2011年 4月12日	シアトリカル應典院：姉川明子を偲んで 一朗読公演会 出演者／朗読グループあじさい「オリオン座からの招待状」 朗読グループ萠「よだかの星」 朗読劇団朗読ＧＥＮ「片葉の芦」
7月30日 31日	一心寺シアター倶楽：第９回定期公演／小泉八雲「耳なし芳一」 宇江佐真理「概ね、よい女房」
2012年 2月13日	一心寺シアター倶楽：日韓演劇フェステイバル／金 倫永「秘密の花園」
7月７日 ８日	一心寺シアター倶楽：第10回記念定期公演／井上ひさし 新釈遠野物語「鍋の中」・「四捨五入殺人事件」
12月８日	山本能楽堂／縁(ゆかり)の会賛助出演「誉田屋」 上方落語より
2013年 7月６日 ７日	一心寺シアター倶楽：第11回定期公演／菊池寛・井上ひさし「唐黒の壺」 浅田次郎「冬の星座」
2014年 10月17日 18日	近鉄アート館：第12回定期公演 平岩弓枝「猩々乱」 宮部みゆき「落葉なしの椎」
2015年 10月31日 11月１日	近鉄アート館：第13回定期公演 筒井康隆「五郎八航空」 太宰治「清貧譚」「舌切雀」
2016年 9月25日	近鉄アート館：第14回定期公演 佐江衆一「思案橋の二人」 北原亞以子「夜鷹蕎麦十六文」